

忙 申 閑

A：うちのオカンがね、最近病院でええことが始まって、どうもそのええことの名前を忘れてらしくてね。

B：ええこと？ 名前忘れてもうて？ どうなってんねんそれ。ほな俺がね、そのええことの名前、ちょっと一緒に考えてあげるから、どんな特徴言うてたか教えてみてよ。

A：いや、おかんが言うには「情報やデータを活かして病気予防や良い医療の実現を目指してる」ちゅうねん。

B：うーん、その特徴は医療DXやないか。厚労省のホームページには長々とした定義があるけど、要するに医療DXが進むと患者さんも医療機関もウィンウィンになるということで、国も推進してるんや。すぐ分かったやん、もう。

A：でもちょっと分からへんねんな。

B：何が分からへんのよ。

A：いや俺も医療DXやと思うたんやけど。オカンが言うには、新しいパソコンやシステムが入ったその次の日に、受付で患者さんが使い方がよう分からんで困ってはって、病院の人らも右往左往してはるし、患者さんも待たされたらしいねん。

B：それやったら、医療DXと違うかあ。その病院は単にIT化されただけで、IT化することで何か便利になった気になってるだけやと思うで。良うなってみんな喜ぶもんでないと医療DXやないねん。で、まだほかに何か言うてなかったか。

A：マイナンバーカードを持っていったら、それだけで保険証やお薬手帳はいらんよようになるらしいねん。

医療DX

広報委員会委員長 川崎 康寛

B：ほう、やっぱり医療DXや。マイナ保険証は医療DXの基盤となるもんや。保険の資格確認だけでなく、特定健診の情報や薬歴もすべて呼び出せるので、医師等からより多くの種類の正確な情報に基づいた総合的な診断ももらえるし、重複投薬の回避もできるんや。

A：でも、近所の小児科の先生が言うのにはな。

B：え、小児科？

A：マイナカードで保険情報は入手できてほとんどが紙のことも医療証を持ってくるから結局窓口で確認せなあかんし、駐車場で診ている発熱患者さんのマイナカードの預かりや確認もでけへん。院内処方やから電子処方箋は今のところ関係あらへん。患者さんのメリットも考えなあ

かんけど、デメリットもあるし実際の手間の多さなんかを考えるとああって言うてるねん。

B：うーん。マイナ保険証利用は外来のネット予約の広がりと同じように、カードとかコンピューターに対応できそうな小児科患者の保護者とか耳鼻科の患者さんなどから拡大せんと広がらんのとちゃうか。小児科でそんな状況やったら広がるもんも広がらんやろ。国は2030年を目処に医療DX化を進めるって言うてるけど、せっかくやるんならほんまに使いやすいもん、便利なもん、役に立つもんになってもらわんとな。